

# 窓辺

浜松科学館開館

30周年を迎えて

あんどう たかとし  
安藤 隆敏

ことし5月1日、浜松科学館は開館30周年を迎えました。前身の児童会館が24年間の歴史に幕を下ろし、



1986年、西遠地区広域市町村圏の取り組みとして

新しい浜松科学館が誕生したのです。

浜松科学館の目的は、初代館長で、のちに名誉館長に就く桜場周吉先生の言葉によると、「近代科学技術に対応した新しい視点に立ち、青少年の科学する心を

育成するため、また、地域住民の科学知識の向上のために」です。見て、触れて、科学する楽しさを追究するというコンセプトはその後、全国の科学館のモデルとなるほど革新的でした。以降、入館者は485万人を数えます。

建設に関わった市長や部長、教育委員の方々は、戦後復興のころより、「ユネスコ活動（国連の教育・科学・文化機関に呼応する民間ユネスコ）」を行っていました。せっかくできた科学館を活用して科学教

育を盛り上げてほしいとの要請を受け、取り組んだのが外部団体である「ユネスコ科学教室」です。教員をスタッフとして小学5、6年生を対象とした講座で、ことしで29年目となります。

私は開館10周年までの4年間は、指導主事として科学館に勤務し、開館20周年のこの特別展では国蝶オムラサキを紹介するブースを担当しました。そして今、館長を務めていることに不思議な縁を感じます。これまで関わってきた先輩諸氏と同様、浜松の科学教育に貢献する存在であり続けてほしいと強く願っています。

(浜松科学館館長)